

FIG 香港会議の参加報告（感想と若干の提案）

日本測量者連盟第1分科会委員長 木村幸吉

総会2週間ほど前に、石原総幹事から参加費・割引航空券代程度の負担ができるが出席の意向はあるかとの打診を受けた。

2年ほど前に、第1分科会長となってから活動らしい活動をしていないことを気にしていた。また、その最も大きい理由のひとつは第1分科会（専門職の実務：Professional standard and practice）が何を期待されているかよく分からないことからこの機会に把握したいと考え出席させていただいた。

1. Strategic Integration of Surveying Services（同心共策測量服務）

総会及び Working Week 2007 を一言で言えば、サブタイトルに示された次の言葉に集約されると理解した。「Strategic Integration of Surveying Services（同心共策測量服務）」である。

次のような会長報告及び W.W.の朝一番に行われる Plenary Session が見事にこの意味を表現していた。

われわれは、宇宙技術を活用する GPS,衛星画像、レーザ技術を活用するリモートセンシング、空間情報技術を活用する GIS 等々の高度の技術を得ている。

FIG は、世界の測量者団体の組織として高く評価され、国連が承認する諮問機関として（企業との関係に細心の注意を払いながら）活動している。

いま、地球上では、人類にとって危機的な地球温暖化等グローバルな課題が山積している。海面上昇による低地の水没、砂漠化、異常気象、大気汚染、水質汚染、水資源問題、食料問題、貧富の格差、これらに端を発する地域紛争、大都市問題等々。これらは一国では対処できず国連は Good governance を強く求め、専門職集団の活躍、科学的な調査を基礎とする施策の提案を期待している。

これらの実務的な施策案は、グローバルであると同時にきわめて地域的である。ある国あるいは地域の測量者は、地域特性をもった課題にも取り組む必要がある。

2. Commission 1 について

各分科会の計画概要は、一般総会で分科会長から報告される。総会で

あるから細部の議論は少ないが分科会1については分科会2（教育）との関係について異論があったが、ACCO（アドバイザリーコミッテイ）の「重要な指摘であるが難しい問題である」のコメントで終わった。コーヒブレイク後の **Commission Annual Meeting** では、香港に来た第1の目的であったことから分科会1に出席した。総会でも議論された意見が出たが大きく取り上げられることなく分科会2と連携して「ヤングジェネレーションの育成」が中心的な課題として議論された。前の分科会1の議長であったグリーンウェイさんは専門職のビジネスモデルについて報告書をまとめ高い評価を得たが、同じことを継続するような課題でもない。やはり分科会1は難しい分科会と感じた次第である。総会が明確にした「戦略的な路線」から考えると国連等の諮問に応じて各分科会を総合する機能が求められると考えたが力量を考慮してACCOがその機能を果たすものと理解した。

3. Parallel Technical Sessions

自分にとって分かりやすい国土地理院、民間企業、(社)日本国土調査測量協会で経験した業務（開発途上国の水資源開発、基準点整備、基本図整備、GIS基盤整備等の技術協力、固定資産評価、地籍調査等）と関連あるテーマをつまみ食いのように出席し、FIG会員の活動を把握したいと考え出席した。

開発に伴う地価評価を予測する手法の研究など盛んで興味があった。日本では地籍調査を始めて50年が経過したが計画の50%に達していない。国の経済力を強化する上で都市再生等土地問題は重要であるが地籍の資料が整備されていないため困難に直面している。土地の流通に国民、地方自治体が消極的な理由は、土地が課税のために強制調査された歴史があり、いまは不動産取引の不透明さにこりこりしているのが根本にあるように思っていたからである。日本の固定資産税評価は現状の評価としては緻密であると思うが変化の予測などが重要であろうと感じた。JFS会員でもすでに研究されているのを私が知らなかっただけと思うが測量者間でのコミュニケーションがあればこのような地籍調査の進捗の課題にもまた別のアプローチができる可能性があったと思われ、自分のFIG、JFSに対する無知を感じた1例である。

その他専門職の教育問題では大学関係者等の **e-learning** に関する発表など非常に興味ある研究等があった。

4. 貴重な経験をどう生かすのか

今回の出席に当り、会長初め関係各位にはいろいろとご配慮をいただき感謝している。特に石原総幹事には初心者 of 議論に根気よく耳を傾けていただき感謝している。拙速な面があるが次のように考えている。ご意見をいただければありがたいと思っている。

- (1) FIG の提起した戦略に沿って JFS の適切なやや長期的な目標案を総幹事・第 1 分科会長がリストアップする。
- (2) 各分科会合同会議で各分科会及び JFS 会員ができる条件にあわせて行動計画案を作る。
- (3) 行動計画案の妥当性を総会あるいは文書回覧で審議する。